

アクリル絵具のつや

アクリル絵具や下地材のジェツンを塗ったときの光沢は、何によって決まるのでしょうか。光沢があるかないかは、基本的に表面の平滑性によって決まります。磨いた金属面やタイルのように表面の凹凸の少ないものは光沢がありますが、同じ金属でも粗いサンドペーパーで傷をつけるとつやがなくなります。絵具など色材を塗ったときの光沢も、結局、塗膜の表面がどれだけタイルのような平滑な状態になっているかによります。アクリル絵具やガッシュ、ジェツンの光沢の度合いを決める要因は、次の3つに分けられます。

1. 顔料と糊剤(メディウム)の比率

糊の中に顔料を加えて混合していくと、糊の多い間は表面に糊が現れていて液面が平滑なので光沢があります。顔料が多くなると、表面が顔料粒子で覆われてざらざらするため光沢がなくなっていきます。アクリラとアクリラガッシュの光沢の違いは、この要因によるものです。もともとの顔料の違いがあるわけではありません。絵具に用いられる顔料の最大粒子は、アクリラもアクリラガッシュも10 μ m(ミクロン)以下となっています。ちなみにアクリラガッシュに糊剤のグロスメディウムを加えていくと、表面の光沢はどんどん上がっていきます。

2. 顔料の分散度合い

2つ目の要因は、顔料の分散度合いです。顔料は最初のうちは、たくさん細かい粒子が集まって塊となって存在

しています。機械を使ってこれを細かく砕いてやり、糊に均質に混ぜることを分散するといいます。これがうまくいくと、顔料が一定の大きさに揃って表面が平滑になるため、つやが出てきます。したがって、分散が進むにつれて絵具は光沢が高くなっていきます。

3. 粗い粒子の使用

今回ホルベインが発売した「アクリル絵具 粗粒子マットタイプ」は、つや消しの鮮烈な発色が特長です。この粗粒子マットタイプは、1でも2でもない第3の要因によってつやをコントロールしています。つや消し材として、粗い粒子の粉を入れているのです。あらかじめよく分散させておいた絵具に粗い粒子のものを混合すると、表面に凹凸が現れてきてつや消しになります。ジェツンも同様の手法によって、表面状態をコントロールしています。ジェツンS、M、L、LLは、それぞれ10、20、60、130 μ mの平均粒径をもつ粉を混合することで表面状態に差異をつけています。粗粒子マットタイプに使われている粒子は、ジェツンMと同じものです。カラージェツンもそうですが、20 μ mの粗めの粒子を入れることによって、アクリラガッシュとも違う独特のラフな画肌、つや消しの鮮烈な発色を実現しています。



ホルベイン アクリル絵具
粗粒子マットタイプ
全36色
容量110ml/ボリチューブ入り

ホルベイン絵具に関する
ご質問・ご相談は…

ホルベイン絵具 技術サービスセンター TEL.0729 (85) 1223
〒579-8063 東大阪市横小路町4-10-52
電話受付時間/9:00~16:00 月~金曜日(祝日を除く)

holbein

ホルベイン絵具